朝 鮮 の コ ガ ラ

Note on the Willow-Tit from Corea

三 島 冬 嗣*

Tōdi Mishima

朝鮮のコガラはこれまでに 2 標品が報告されているが、いずれもカラフトコガラの迷鳥であると言う。そもそも朝鮮で採集されたコガラは非常に少く、筆者が知る限りでは 4 個に過ぎない。本報文は所蔵先の山階鳥研並びに京都大学の御好意により、僅少なながらその 4 標品を比較検討して得た見解であって判定は従来の説と異っている。

バイカルコガラ *Parus atricapillus baicalensis* (Swinhoe)

? *Poecile atricapilla baicalensis* (Swinhoe), Yamashina, *Tori*, v, No. 24, p. 374, 1927.

Parus atricapillus sachalinensis Lönnberg, *Hand L. Jap. Bds.*, p. 33-34, 1932.

Parus atricapillus sachalinensis Lönnberg, Mori, *Journ. Chosen Nat. Hist. Soc.*, No. 20, p. 12, 1935.

材料：山階鳥研—No. 1551, ♂ ad., 10. xi. 1926, 京畿道京城彰義門外。 農林省—No. 4589, unsexed ad., 20. ix. 1932, 全羅南道七發島。 京都大学—Nos. c 19 (7). c 19 (10), 2 unsexed ads., -i, 1935, 朝鮮白頭山。

朝鮮から採集された 4 標品は、樺太産のコガラに比し羽色は暗色で満洲産のコガラにむしろ酷似しているから、*P. a. sachalinensis* ではなく *P. a. baicalensis* に判定される。このことは、隣接のウースリー地方～満洲に分布する鳥と関連があるもので、樺太からの迷鳥と解されている根拠はないように考える。

バイカルコガラ *P. a. baicalensis* を満洲からの報告では、鎮江山 (緯度 40×経度 124) 11. x, 鳳凰山 (40×124) 17. ii, 横道河子 (=ハンダヘーズ, 44×129) 23. iv, 一面坡 (45×128) 秋季, 興安 (48×121) 21. vi~8. vii の記録があり、ウースリー地方は近來 Portenko (1954) が次のように別亜種として区別している。Portenko によればウースリー地方に限棲するコガラは *Penthestes montanus shulpini* と云い、樺太の *P. m. sachalinensis* より翼長短かく背面は暗色であると云う。しかし翼長の差異は猶お多くの材料で比較されれば多分さほどの差はないであろうと推察される。因に *P. a. baicalensis* は, Hartert の報告の測定は際立って明らかに大形であるのに反し、満洲産はいずれも小形であるから、真の *P. a. baicalensis* がそのように余程大形であるとすれば小形のウースリー・朝鮮・満洲は *P. a. shulpini* に含まれることになりこの亜種が成立することとなる。但しこの点の比較論はこれまでになされたことはなく、満洲・ウースリー地方は従来より *P. a. baicalensis* の分布範囲として疑われていない。そこでこの地方と異なることのない朝鮮のコガラは *P. a. baicalensis* に同定するのが妥当である。次に測定表を掲げる。

* 林野庁林業試験場鳥獣研究室(東京都目黒区下目黒)

Parus atricapillus baicalensis

採集地	採集季	性	翼長	尾長	露出 嘴峰	跗蹠	測定者
白頭山	—i	Ad.	63	59	9.5	16	三島
"	—i	Ad.	60	59	9.5	16	
京城	10. xi	♂ ad.	64	60.5	10	16.5	
七発島	20. ix	Ad.	63.5	56	10	17.5	
興安	21. vi~ 8. vii	♂ ad.	66	63	10	—	山階
"		3 ♀ ads.	61.5~64	58~62	9.5~10.5	—	
横道河子	23. iv	♀	65	60	—	—	Meise
鎮江山	11. x	♂ ad.	63.5	60	—	—	黒田
—	—	♂♂	70	64~68	—	—	Hartert

Parus atricapillus sachalinensis

採集地	性	翼長	尾長	露出 嘴峰	跗蹠	測定者
樺太※	15 ♂♂	60.5~66.5	53.5~62	9.5~10.5 (1例 11.5)	15.5~17	三島
"	9 ♀♀	60.5~66.5	53.5~61.5	10~11	15.5~17	
"	8 ♂♂	63~67	54~62	10~11	15~16	山階
"	15 ♀♀	60~64	53.5~59	10~10.7	15~17	
"	♂♂	60~68	52~61	10~10.5	15~16.5	Munst- erhjelm
"	♀♀	61.5~63	55~57	10~10.5	15~16.5	
"	1 ♀ 1 ♂	64~66	—	11	—	Lönnerberg

※ もと樺山徳太郎氏蒐集標品。

Résumé

Based on four specimens from Korea and comparing with published data, the Korean Willow-Tit was considered to be the race, *Parus atricapillus baicalensis* (Swinhoe).